



ID: 1194

科目名	保育内容(環境)【26年度生用】			コード			
英語表記							
担当教員名	石川 正一			年度	平成26年度		
基準年次	2年次	開講期	前期		単位数		
授業形態	演習	授業形式			履修形態		
授業概要							
<p>子どもの発達における環境の意義や役割について理解を深め、子どもにとって望ましい環境について修得させる。そのために、子どもにとっての環境とは何か、子どもの発達にとっての環境はどのような意味や役割を持つのか、子どもは身近な環境にどのようにかかわっていくのか等について、理解を深めさせる。また、保育者自身の好奇心・探究心・感性・さらには対象へ知識や技能等が、子どもの環境との関わりへの支援に大きく関係することを理解し、自らの資質の涵養について考える。</p>							
到達目標							
<p>保育内容「環境」について理解するとともに、幼児期の自然事象に対する興味や関心、態度について理解する。また、指導者として動植物を育てながら、人間と自然との共生について考察できる能力を身につける。さらに、指導計画等も作成できる。</p>							
授業計画							
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明					
第2回	動植物を育てる	・野菜を育てる					
第3回	〃	・花を育てる					
第4回	〃	・身近な動物を飼う					
第5回	〃	・環境を調査する					
第6回	保育内容「環境」の変遷	・明治から戦前					
第7回	〃	・戦後から現在					
第8回	現代の子どもと環境	・子どもを取り巻く様々環境について考察する。					
第9回	〃	・事例として、里山保育の実例について考察する。					
第10回	保育内容「環境」について	・保育所保育指針について理解する					
第11回	〃	・幼児期の人的環境について考える					
第12回	〃	・幼児期の物的環境について考える					
第13回	指導計画の作成	・日案を作成する					
第14回	〃	・年間指導計画を作成する					
第15回	まとめ						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
保育内容「環境」のねらいについて理解することができ、幼児と環境について自分なりの考えを持つことができたか。動植物と積極的にかかわり、育てる力がみについたか。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				10%	30%	30%	30%
授業外学習			テキスト、教材				
・身の回りの「自然環境日記」をつける。・野菜や花を育て、観察日記をつける。			・芝崎正行・若月芳浩 編『保育内容「環境」』ミネルヴァ書房				
参考書			受講生へのメッセージ				
米本 昌平『地球環境問題とは何か』岩波新書 1994 藤田 智『野菜づくり大図鑑』講談社 2007 今森 光彦、遠藤 勁『昆虫記』福音館書店 1988			実際に動植物を育てたり、野山や海に出かけるので、適切な身支度で授業に参加して下さい。テキストを必ず購入する。				
キーワード							
保育内容「環境」、人的環境、物的環境							